

C-21  
N

一九五九年五月

第三回海協連アマゾン支部  
指導員連絡協議会議事録

日本海外協会連合会  
アマゾン支部

L703  
234  
EA  
LIBRARY

国際協力事業団	
受入 '84. 8. 14 月日	L. 703
	23.4
登録No. 02965	EA



一日時 一九五九年三月十六、十七日

二、場所 在ベレーン總領事館會議室

三、出席者

(一) 海協連支部 越知 向井田 高木 那賀(ベレーン)

谷(ロンドンニア) 高村(マナオス) 上森(モント)

小谷 辻村(スワマ) 山本(マカパー)

上野(種苗農場) 各取員

(二) (省管官庁) 海協連支部 田中理事官  
相次理事官

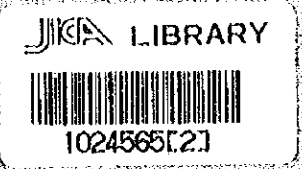
(三) オブサーバ 辻海協連支部顧問 太田移住振興代表社員  
網根田移住振興ベレーン支店長

平賀康吉 農学士

神田鉄蔵 医学博士

海協連本部内田重雄

(四) 司会者 越知 栄





才一日 (十六日) オフサーバーを友えず

午前八時三十分開会

司会者 (越知) の開会の挨拶に引続き、福岡総領事より大要次の趣旨の挨拶があった。

才二回、海協連アマゾン支部指導員連絡会議が行われる事は河に喜ばし、最近管内の各植民地とも非常に落ちついて、営農成績も一段とあかっている事は、指導員各位の努力の賜として感謝に堪えない。入植者を育成強化発展させる事は入植者は勿論後続移住者を導入するためにも非常に大切なことである。新し口移住者を導入することは、海協連支部に与えられた大なる任務である。州々、直轄地政府の各官植民地に移住者を導入することは交渉し易いが、INIC直轄の植民地は、INICと開港庁が中にあるので非常に困難が多い。最近、リオ・マランコ直轄地、アマゾンナス州、マラニョン州の各州を視察し、州知事と際を交えて締結したが、各州とも新し口植民地の設定と、日本人の導入には非常に熱心であるので、この機を逃せぬように具体的に話を進めて行く。又、BR-10号国道を中心とした植民地設定も研究の中である。この才二回の連絡協議会が、才一回より更に大なる効果をおこすよう、充分研究討議される事を切望する。

続いて、昨年九月帰国、本年三月帰任した越知主席指導員より、日本に於けるアマゾン熱につき次の如き発表があった。

一、日本に於けるアマゾンに対する研究熱は、当地で考えている以上に熱心なるものである。

二、いろいろの会合や研究会に出席したが、その都度火の点を特に強調し、賛成を得た。

(ウ) アマゾンに日本の資金による植民地を建設せねばならぬこと

(ウ) 移住者を伴う企業の出出

(ウ) イーリヤ地方(アマゾン河口地区)の研究とその開発

三、外務省に於いては、専門家による強力な調査団を本年五月頃アマゾンに派遣する予定であり、その調査費も約一千萬との事である。

四、戦前比島がバオで、マニラ麻の大会社を運営された古川歩雅会社々長古川義三氏も是非アマゾンにマニラ麻を栽培したい希望で、すでに日本を出発しており、

近田中に当地着の予定である。要は、外務省をはじめ関係先が本腰で研究を初め  
たし、一般の企業もアマゾンに興味を感じている。この機を逸せず、我々も研究  
してアマゾンの建設に尽力せねばならぬ。

次いで各植民地概況報告に入る。(九時二十分) 報告された各植民地の概況は別表の  
通りであるが、附註明中強調された点は次の通りである。

ノ、タイアノ植民地(小谷取員)

小谷 (一) 現在タイアノが一番困っているのは道路問題である。この点は強力に州  
政府に対し交渉せねばならぬ。

(二) 生産物の販路は、目下のところあまり心配してはなぬが、近いうち将来入植者  
は、生産物が過剰になるのではなぬかと心配している。現在マノオスーボア、ウイス  
ノ道路が建設途中であり、ギアナ領との道路も近いうち将来に開かれるので、いくら生産  
されても販路は心配はない。

但し、ピマツタ、カフエー等の生産物を大りに作り、飛行機でギアナ、ウエネスエ  
ラに運んで採算のとれるものを作れば将来は洋々たるものがある点を強調して指導し  
た。十年後には大発展するであろう。

(三) 入植者に対する五年になるが、僻地のため故々カボク化の傾向を示しているか  
ら、指導員を駐在せしめて指導を強力に行われねばならぬ。そのためにも新に  
移住者を導入し、入植者数を殖すことを考えねばならぬ。

(四) 最近三年のうち、二年と大乾旱に見まわられたが、入植者が動揺してはなぬと思は  
れる。

福岡

タイアノのカボク北限止の意図ではなぬが、近々新レリ入植者の家族  
を入植せしめる予定で、州当局も了解である。道路は、タイアノ植民地  
建設当時の殖産局長トルバルデ、マガリヨンエス氏が、知事の要望でアクレ直接  
領から転勤させられ、タイアノ植民地に力を尽くすことになっているので解決さ  
れるであろう。

小谷

タイアノの将来性は大りにある。ギアナまで一五の幹線路も作られる予定で  
ある。ギアナより農産物の買入希望もきているが、リオ、フランコ州それ自体が  
まだ農産物が少いので販路を築き止めているのだから、農産物は作れば作るだけ売  
れる。心配は全然ない。

今後は牧場とビメンタが有望と信じている。又、マナカ島に邦人を回の家族が入  
れたらという希望を直轄地当局者からも聴いている。

ス・トレイセ、デ・センテンア口植民地（谷取員）

谷 此の植民地は比較的に問題の少ない植民地である。現在永年作としてゴムに主力  
を入れていくが、その成長は非常に良い。しかしこのゴムの採液の始まるまでの  
生活費と、ゴムの園の維持費を捻出するために野菜等の短期換金作物を栽培せねば  
ならぬ。そうすればゴムの園の管理がどうしてもおろそかになるので、維持費と  
して各戸に対して融資の必要がある。ゴムの採液が始まれば、借入金の返済は容  
易である。又、現在ゴムの苗も芽接ぎしたものを配給されているので、少くとも  
種子より発芽させて育成するより三ヶ年の期間が短縮されている。ゴム育成は  
ますます助長すべきかと考えるので、是非金融の道を前倒して進めたい。

上 森 アマンニ銀行のゴム融資はないか。

谷 現在採液しているものに対しては、相当大の金を貸しているが、育成中のも  
のには、あまり貸さず、五ヶ年分のみで交渉してもなかなか借りられない。

福岡 ゴム融資を渡りたいと欲しているが返却はいつか成果があるか。

谷 ある。二年目五町歩、三年目十町歩、五年目十町歩、計二十五町歩を植付  
けて管理すれば、採液の始まる十年目より十二年目には現在の時価から考え  
採液量を内輸にみても二、三九コントスの収入を得られる。二十五町歩を植付  
け、ゴム液採取が始まるまでの十年間の所要経費は、管理費、苗代等で約一五〇〇  
コントスである。よつて一五〇〇コントスを借りても元利の返済は容易である。  
なお、二十五町歩の植付量はベルテラゴムの園に方角一町歩五八本として計  
算したから一三三三〇の本がその植付本数である。なお、詳細計算は別に報告書を  
提出する。

越 知 計算は内輸にやっただけのことであるか。基準はここに置いたか。

谷 現在のホルト、ウエーリゴ並傍の自然木からの採液量と、ベルテラゴムの園の  
実績を参考として、それを二〇％以内輸にして計算したもので、数字的には絶対  
無理ではない計算であると確信している。

3. バラ・ウイスタ植民地（高村取員）

高 村 現在マナカ市の野菜消費量は急増しており、邦人の中には昨年一ヶ年に三〇〇  
コントスの純益をあげたものがある。永年作はゴム、タワラナ、コーヒト等で皆



成績は上々であつて、特にゴムは成長は早く、ブラジル人がわがここのようにして自慢し、外部に宣伝してゐる。去年位から試験切込みが行えるような樹も出てきた。野菜は勿論、コーヒ、タバコ、ラウラナールの収穫があつたので、各入植者とも激次機械化の方向に向つており、小形船（モートル・ボツパシ）の購入、機械によるリアリシヤの製造が行われ初め、その余力を永年作に向けてゐるので本年の收支決算では赤字のごとく見えるが、機械化に資金を投入したためで、決して赤字ではなく、心配は全然ない。アマゾン全植民地中最も経済的に安定した、定着地のある植民地と自慢ができる。しかし一番困るのが道路で、入植以来五年余全然修理補修されず、州々植民地当局にいくら交渉陳情しても全く架の蔭である。これを道路さえ完成すれば鬼に金棒である。

マナオス郊外植民地

高村 昨年十一月入植したため、日時が本つていないので労農成績について報告すべし段階ではない。

入植時期が遅れたので困難に遭遇したが全員元気である。今後は入植時期を失せぬように日本側に資材の運送をねばならぬ。又、全段取り切つてゐるが種苗が非常に足りぬ。

海漁業としても入植者が入植する以前に、小規模な種苗園を入植地に設けて種苗の育成を先に行つておかねば、入植者のスタートが非常に遅れるから、この点研究を願ひたい。

向井田

種苗園を現地に設定することは、小規模でも資金、人的方面の両面からの制約を受けるので、入植予定地付近の篤農家に当方から費用を出して種苗を育成して貰うようにしたいと考える。しかし入植が決つてから、種苗の育成を初めては遅い場合もあるから、モンテの種苗園をもつと有効に利用できる方策を考えねばならぬ。その場合問題となるのは種苗の輸送方法であるので、これを研究しなければならぬ。

モンテ・アレグレ植民地（上森転買）

上森 当植民地は、本年三十年末の大乾魃に見まわられて大口に生産物に影響し、ビメシタ、コーヒ等は全滅に近り大打撃をうけたため、二、三の人々は動搖してゐる模様だが、平賀氏の忠告で又、考え直したようである。モンテ・アレグレは土地が良すぎるために短期作にまゐる傾向が強く、米、ミリーヨ、フェイシヨが盛

心である。他の植民地に比して永年作が少いので、今後カカオ、ココ、デンドー等の植付を主力に永年作の指導を推進して行きたい。ドイス、ガリリヨス地区の永年作作物の研究熱は盛んであるので、この地区は心配はいらない。困っているのは、当植民地も他と同様道路である。しかし、ブラタ将軍（パラ州々統領）と話した結果、機械がきまらぬから乾燥期には修理にかかるであろう。

組合活動も秋火活発となり、パリンチンス、マナオス、サンタレン、ヴェレーンと販路も拡大されつつある。それについても移住振興会社は、産期作増産に対しても融資してくれるようにして貰いたい。倉庫の中の生産物を担保として貸し出される。モンテは一段と伸びる可能性がある。

縮圃  
モンテは他の植民地に比して永年作作物の研究が定らぬのではないか。もつと永年作をに掛ければと考えるか。

上森  
ドイス、ガリリヨスは永年作作物に一生懸命であるが、今年の乾燥で傷められたので、一寸意気な挫かれた格好である。しかし今後も大いに永年作物を植付けよう努力して行くつもりである。

縮圃  
モンテをのりなく、この植民地も同様だが、入植地は五年後になつて永年作物に気が付いた時すでに数ヶ年の女傭女である。入植当初から永年作物を植付けるよう指導すれば土地に愛着を感じ、落着きもある程度防止できると信じている。

6. クワマ植民地（小谷、辻村職員）

小谷  
クワマ植民地は海沿いの狭い狭いにかかわらず、植民地所長の方針でオ、オニ火には、入植当初に永年作物を植え付けさせなかつたので、これが現在問題となつてゐる。オニ火、オニ火はオ、カカオを主として最初から指導植付させたので成績がよつてゐる。米の成績は概して良好が現在オニ火が急増してゐる。植民地側はオニ火病は当地にはないといふので、治癒を行わないう。このように当支部指導員と植民地当局とに、いろいろ意見の衝突が起まるので、連年植民地は非常にきつてゐる。教育問題が一つの問題で、船中の関係で、ある一部の児童は植民地の船がたため、一年のうち一ヶ月しか通学できなかつたことがあつた。しかし、これは今年分秋を回す所に集める予定なので解決できると考える。制止上一番の向養食は食生活で、動物性蛋白質が全然不足で、従つて野菜だけの食事にばかり、体力が弱り病気にかり易いことである。が、これも最近逐漸的に向上

してきたので、成分良くなってきた。交通、運輸は恵まれている方で問題は無い。ことに海浜連から貸身の稲林は産物の輸送専門に使用されていて、これがどれだけ入植者のためになつてゐるか想像以上である。組合活動は激火よくなりつつあるが、マレソンが近いため自分も販売するものがあり、なかなかまとまらなかつたが、近いうちにメルナンフーコ、カラパル西区との組合が合併され、一元化される予定である。ムソマ植民地の一番困る点は、田圃地面積の問題である。平均一アール六町歩位の可耕地面積しかなく、後者は沼池があつて、被覆した排水溝を掘らぬ限り、耕地面積はほとんど増加せぬであらう。ひとし所は耕地面積が二町歩も無い所もあつて、将来性を考えると入植者としても落ち着いて生活できぬ状態である。このような状態で入植者を引止めることは不可能である。

その対策としては、一アール二町歩程度の水田を作り、残余の土地を永年性作物田として力を注ぐより、外途がなければ、しかしこれも、この熱帯地で水田作をいつまでも続けられるかが問題である。永年作物が成長すれば止めようだろう。高村 前泊の鐘ヶ江農場では、河岸に堤防を作り、水門で水を自動的に調節してゐる。水田は機械化大農式で水門の水を引上げたあとは畑作で三毛作をしてゐる。

福阿 タワマは特殊地帯で、延長四五KMに渡る堤防は不可能だろう。辻村 必ずしも悪いところはばかりではなから、水田は耕地面積が少いので大部分が退耕した。気の毒である。良い土地の当たつた者は少数で、これは永年作物種不付りで永住の意思を失はせる。

小谷 カラパル地区の野菜は、出産期僅かに三ヶ月で約一五〇〇コントスの収入をあげた。これを蓄積して他日の飛躍に備えてゐるか、問題は雑草の処理だ。豆科の植物は背たないからアエラリア等の緑肥作物は成長しない。結局は機械化より他金が無い。現況では未だ二〇〜三〇%の底耕者が出るだろうと考えられる。今後大口に地勢を研究し、改良地当局とも協議して対策を練るつもりである。

マタビー植民地(山本辰良)

山本 ヲハを主作物とし、マンジヨカを換金作物としてゐる。既にその大部分が三町歩の土地を利用し尽くしたので困つてゐる。それは他に土地を賃せば、現在の耕地の管理が出来にくいので他の土地には移り得ず、現在ICOMIを対象として養鶏を行うように指導してゐる。既に実績が上りつゝある。ICOMIの現在の鶏の消費は一ヶ月成鶏二〇〇羽



卵は約一〇〇〇〇かであるので、各入植者一アタリ二〇〇〇の羽づつ飼育すれば充分豊かな生活が得る。その他フアリーニア、異樹も行っているので、以前と異なり落ち着いた植民地となった組合は船頭ばかりで、各個人の協同性がないうのでなかなかつかしむ。しかしECIO MIと各個人契約の不利が解りはじめたので、歌次かたまるだろうと信じている。当植民地として特に挙げるべき隘路は現在ではない。

フアレンシア植民地 (山本取員)

山本 この植民地は野営専門であるが、マカパ市の野営消費はECIO MIの発展と共にまだまだ伸びるので心配はないが、将来のために野営単作から永年作への移行を考へつつある。おそらく取入額から言えばアマモンニの収入をおぼけているであろう。入植者が僅かなので特に問題点は無い。

マカゴン植民地 (山本取員)

山本 一番困っている点は入植者が少いので学校が開けぬ点にある。州政府に交渉しているがなかなか解決しない。児童三五名いると教員が派遣されるのだが、その数に達しない。食糧足り切らない。交通面にも難点がある。植民地内にはラツペが多くて生産物の運搬に困っている。直轄地政府に対し橋木の補助を交渉しているが、並いうちに支給されるものと思われる。又、海協連支部の援助によって、その修理に当てているのでそのうちにこの問題も解決されると思われる。

十六日(午後二時半) オブザーバー出席

司会者 越 知

越 知 先ず今後の各植民地の移住者の導入の見通しと、土地について討議願いたい。  
オニに連邦植民地の場合は、

上 森

オニ、アレクは入植以来今年九月で六年になる。現在六六家族で組合を  
結成して、営農に励んでいるが、まだまだ組合員の数が不足で全済的に行きづま  
りを感ずる。日本から新しい文化、又は農業知識を導入する意味からも、毎年二  
三の家族を定期的に導入したい。しかし、これはINICの手算とも関係する  
し、一面既耕者であった関係からINICはなかなか簡単に承知しないというこ  
とである。現在営農している人々の立派な活動振りは全然見えてくれなくて、既  
耕者の実ばかりに目を向けていることは遺憾である。現在の植民地前長と交渉し  
た位ではどうにもならない。政治的に解決して貰いたい。入植場所は肥沃の地が  
いくらかもあるのだから。

向井田

入植に要する経費を日本側で負担し、植民地当局に全済的負担をかけたという  
条件ではどうか。

上 森

交渉したことはないが、それならば不可能ではなからう。

小 谷

その案は現地ではどうにもならないであろうから、政治的な解決をするより外  
ない。

福 岡

アマソン前長がと資金面だけは当地で解決できるが、INICの全済的負担の問題  
もあるのではないかとおぼつかしからう。

向井田

全済的負担は、名目だけはINICでよいではないか。名を捨てて実を採る方が大  
切だと考える。

高 村

連邦植民地に入れる場合、従来のような援助の案を削除して土地を与えるだけ  
の条件で、入国許可を申請すれば可能と考える。

谷

これに対して日本政府は全済的援助をどこまで与えるか。

福 岡

それは判らない。今後研究せねばならない問題である。

高 村

INICから土地を与えるという入国条件で許可をとり、柏岡政府から金銭的  
援助を受けなくても良いという意見書をつければ、連邦植民地に入植は可能だ。  
又、時期さえ失しなればある程度の自己携行営農資金を立派にやつて行ける。

要は道路・家屋・山火・山焼費等の補助又は貸付けの問題だ。現在の入植者の農  
業成績をよく説明すれば、ベラ、ツイスタ植民地の場合はI.N.I.の許可は問題  
力いと信じている。

小谷 実際本年のクワマ植民地当局の予算はヒンコのコントスで、その内四〇〇コ  
ントスが人件費である。残り三〇〇のコントスでは何にもできない。

上森 モンテ・アレグレの場合、現所長はドイス、カリーヨスを視察して、その成績  
がよいので、今後の導入は大いに可能である旨の意見書をリオに提出したところ  
である。

福岡 モンテは代々の所長が赤字を出して、空費浪費であり、モンテ所長の意見書は  
I.N.I.の対しあまり効果はないだろうと考えられる。

上森 マゴマゴして今年も又駄目になっちゃおうと、二、三年見込がなくなる。  
福岡 移住協定を結ぶべく準備中であるので、これができたら、この線で大いに交渉  
を進めることができると信じている。

北村 先般コルデアー口所長に今年入植者を導入する意志ありや、と質問したところ、  
毎年五〇のロットを作り、日本人三〇家族、白人二〇家族の割合で引続けて導入す  
るであるとのことであつた。

福岡 パワマの場合は、新入植者の受け入れよりも、カラバル地区と、ベルナンパー  
コ地区との間の私有地買収問題の解決が先決だ。この私有地六〇〇の町歩の地権  
が物凄く入り込んで困っている筈だ。

小谷 あの私有地は土地が悪い、精々二〇家族しか入れないだろう。植民地は  
三、四〇〇町歩と称しているが、実際の耕作可能地は僅少のもので約二七〇〇  
町歩は使田不可能の土地である。

向井 他に適當な入植予定地は無いらうか。

山本 あちらこちらに入植者が散在するのは、指導上にも又生産物の販路にもい  
ろろと不便である。現在アマパ州政府はアラガリー河の上流、I.C.O.M.の鉄道  
沿線の良いところに植民地を作る計画中である。

福岡 それについてアマパ政府は実現の胆があるか、勿論経済的裏付けが必要である  
が。

山本 アマパ州の計画ではあるようだ。現実にロット割を初めていると聞いています。



上 森

資金さえあればアレンゲール付近には理想的な植民地ができると思う。

司会者

INICと相談した上で、日本側が全借負担すれば新しい移住者の受入れは可能の見込みがあると結論が出たようだ。それでは今後の管農指導方針をいかにするかを討議していただきたい。まず永年作について。

谷

この問題は、おそらくこの植民地でも融資問題が絡まってくるだろうと考える。

ロンドンニアの場合ゴムを永年性の主作物として作る。このゴムの採液までの維持費は非常に大きい。その費用と生活費の捻出は、ロンドンニアの場合野菜作であるが、消費地の人口を考へねばならぬ。それは非常に小さいものである。そのためどうしても生活が苦しくなるので、移民振興会社の長期融資を受けなければならぬ。

先に述べたように二十五町歩の維持費は十二年目の採液までに約一、五〇〇コントスかゝる。十二年目には二、七七九コントスの収入かある事は確実であるから、長期に渉る融資ではあるが、是非助成して貰いたい。

小 谷

これには被覆作物を研究すれば、費用が相当節約でき得ると考へるが、

谷

なにも一、五〇〇コントスを一度にとか、全部とかいうのでは無い。いろいろと研究をして費用の節約に努めるから、不足分だけを貸して欲しいのである。

福 岡

その場合の担保は

谷

別下組合財産は無い。成育しつつあるゴム木が担保である。これを担保にしてくれなければならぬ。

高 村

芽接した苗の配布は

谷

今年は一、〇〇〇本だけだった。十月には二、〇〇〇本位配布が受けられる予定である。この芽接苗によれば、その収穫期までの期間が約三ヶ年短縮される。

高 村

マノオス附近は苗を植えるのを奨励しない。種子の直播である。

山 本

マタビもその方法であったが、現在は苗を植付けている。直播の場合、もし芽が出なかつたら大変な手数かかゝる。

高 村

今年採種して、来年度芽接できぬか。

谷 　それはほんの少数だけで大概三年位かゝる。

高村 　何れにしてもゴムを成育するには資金の融資が必要だが、従来の貸付態度から見て入植者は移住振興会を介してはけいなりようだ。

小谷 　中南方法として、直播したものに肥料をやると二、三年早く採液が始まるといふ研究があるが。

辻村 　聴くところによると肥料は一本七の瓦程度の人造肥（化学肥料）でよいとが事で目下研究してゐる。

福岡 　ゴムは各地の最も重大なる作物であるが、その他のものについては、従来のアマムン栽培法によると、アマムンは漸次砂漠化するものと私は思つてゐる。

それを防ぐためには緑肥作物による表土の流失の防止にある。即ち、永年作物で現在の地表を覆つてゐる原生林に及ぶことと、そのためには消費の大きさのもの、即ちゴムを主眼として植えつけ、その他カプエー、カワラナー、果樹を取り上げて指導してゐる。

瀬岡 　さうするとマナオス近郊はゴムが主体となるわけだ。

谷 　ロンドニアは、マナオスと同様である。

福岡 　モンテ・アレシの永年作はどうか。

上森 　今までは、先に述べた通り土地が良いため短期の換金作物が多かったが、現在は永年作に転換しつつある。即ち、パンパン椰子、カメシタ、カオオ等である。現在のくら植後が下つてもカメシタが非常に有利であるので研究を進めてゐる。

高村 　永年作物は収穫までに相当期間があるりで、その間いろいろと外部からテマが入り込んで入植者は皆迷つてしまふ。しかし収穫が初まった今日では永年作物の有利を眼の当りに見せられたので、ほつておいても永年作はほとんど増えつつある。

辛賀 　どうやら今食べて行けるといふ奥ではどの植民地も同じである。しかし今日の大きな関心は永年作であつて、現況に於ては一寸の植民地を除けて

はゴムが良口ことは間違ひない。各個人に考え方があるのでから、いろいろと  
だまつてやらせておくことだ。良口ものが発見されれば、彼も彼もと止めても  
植村を初めるものだ。

福岡 一人でもつたところを知れてゐる。加工にしても、販売にしても皆の力が必要  
であるか。

平賀 私はその人が望むものを現段階では進めたい。

福岡 それは機軸的試験だ。それは、試験農場にやらせねばならぬ。

太田 ゴムの適地はどこか。

平賀 現在は、ラ、ウイスタ植民地がオー、それからトレーゼ、デ、センチンフロ、  
マタビーだと思ふ。ベラ、ウイスタはもう来年は試験切つけが行えるまでになつ  
てゐる。

太田 不適地は

辻 ゴムは酸性土壌が良口。フオードが失敗したのは土地が良すぎたからだ。  
センチンフロのような土地は不適地である。

平賀 永年作物は、種子から植えるのは雑種が混ざる場合が多いので挿木が良口。土  
地の良し悪しも大目に關係するけれども、良口苗を植えることが一番大切だ。  
ベラ、ウイスタは皆の注目の的になつてゐるので、最初の採液量が非常に他に影  
響を及ぼすから、一滴でも多く採液出来るように是非努力して貰いたい。

高村 その處は銀行が充分面倒を見てくれている。  
司会者 ゴムの混植には何かよいか。

高村 ゴムの六米×六米の間は、三米間隔でカフェーを二本ずつ植えてゐる。クワ  
ラナーの混植は駄目だ。

平賀 ゴムに限らず、主作物が重要なことから、混植物は慎重に考えねばならぬ。  
い、主作物の邪魔になりはじめた時に切り取つてしまつても惜しくないので  
出来得れば主作物のためになるものが良口。

福岡 デンテーは相当量が纏まらぬと、交通不便の地では採算が採れぬのではな  
いか。

平賀 デンテーはパーム油をとるが、これは収穫後二週以内には採油せねば駄目であ



る、従って、工場は近頃とこるに近くてはならぬ。勿論パイア地方では田舎で  
醜態処理してタンホールに入れて工場に出してはいるから、この方法を研究すれば  
良い。しかし、和工場が出来てから物を植えるのは反対だ。生産物が沢山あ  
ることによつて加工場を招致することが本筋と考える。パイア地方より、こち  
らの方が五〇%も生産がよい。これを唯一の収入源とするとは、危険であるの  
で、資金の余裕を見ながら植付けに行き、多数の人々がこゝを植えつけて、  
初めて一つの産業となるのだと考える。

上、森　　テンデー　は手入もいらぬ、どんな土地にも出来る。又、三年したら地味し  
暇をみて手入をすれば良いのだから、一つの産業とするためにモンデーはこれを  
作る積りである。

小谷　　テンデーの含油率は  
平賀　　六五%である。

上、森　　EANPを通じて、永年作を奨励したいのだが、なかなかやめて呉れない。皆  
の協力を待たう。

平賀　　テンデー種子をIANに頼んだら、五〇,〇〇〇個呉れた。しかしこれは自分の  
産で行つて採種せねばならぬ。

福岡　　他人を頼つては何も出来ぬ。遊動連内でどんな連絡を取つて自分の  
力でやらねばならぬ。

向井田　　IANでは必要なものはいくらでも進上するが、必ずその後の報告をIANに  
して呉れとのことであつた。貰ひ、はなしでは困る。

司会者　　ウルクはどうか。  
小谷　　クワマでは、外部の一人の奨めで一生懸命にやつてゐるが、私は賛成出来な  
い。理由としては、需要少く、單初も安く、又、雨期には貯蔵がなかなか、

平賀　　アメリカでは、白葱の胡椒の他に赤胡椒と称して、ウルクで色付けしたもの  
を使つてゐることであつたが、私はウルクはあまり期待出来ぬにような  
気がする。

司会者　　カカオはどうだ。  
小谷　　クワマでは、成績の良し悪しは土地条件にもよるが、要は

手入れの良し悪しが大りに影響する。

注 カカオについて参考までに申し上げておきたい。先般、ベルテラの試験場を見たが、これはコスタ・リカ種の新種であり、結実が早く量も多い。十年まではほとんど増収出来る。それから十三年目までは大体同量、十四年目から減収となり、十六年目に新しいものと植えかえるとのことである。問題は、土地の良し悪しではなれどいけぬ。ゴムの間作とすると病気が出るとの恐れがあるが新実無根であるとのことであった。これの奨励増産のために今年にはベレーン郊外に種苗園を作り、ほとんど増産したほどの新であった。ゴムは採液までに七年以上かかるのだから、三年位で採集できるカカオは間作として有利と見える。かつてトメ・アスーがカカオをやって大失敗をしたのは、あまりにも一度に沢山やった。(六〇〇町歩)ので手入れが出来ずに失敗したので、カカオもゴムと同様栽培上を好む。

高村 植えて良きようなものは沢山あるが、これもこれも植付けてみることは出来ぬ。上森 それこそ試験農場の使命だ。

向井田 試験農場に対する予算が毎年少ないので、資金的にも人的にもまたその試験場では処理だ。早く試験農場が独立採算ですべてを行える様に、現在農場の運営を進めて

上森 これが出来ればどんな試験でも行えるようになる。パイア州では現在カカオ・フランコ種をやっている。これは苦味が少なく上森方

平賀 フラジルはカカオの輸出種であるが、アフリカからカカオ・フランコ種を輸入している。これは木で醜態するし、香りも在来種よりもはるかに良い。LANにもベルテラにも試作中である。

上森 やはり良いものを植えねば駄目だ。司会者 永年作は管農の主眼であるが、食いつなぎの短期作はどうか。

小谷 クワマでは野菜は非常によく行っているが熱帯地だからこれを続けると身体が持てない。永年物が出来るようになったら、収入も野菜では知れたものだ。どうもあまり野菜に力を入れられない。

福岡

どこの植民地でも食料供給を日本人に望んでいるので、これを真向から否定も出来ぬ。その点相手の感情も考慮すべきだ。

小谷

それは確にそうである。しかし、それだけに制約されるのは入植者に気の毒だ。どんく後継者を入れて、野菜作りはその新しく入植した移住者の喰いつなぎ資金獲得のために栽培させるべきである。それでなければ、いつまでも労力を要する野菜作りをせねばならず、又、これを強行せしめれば新しい入植者の資金獲得が困難となり、其倒れの現象を生ずる。よって、永年作への転移と同時に新しい入植者をどんく入植せしめなければならぬ。

高村

マナオスの野菜は成績が良い。養鶏もやっているか飼料の関係であまり奨励出来ない。

福岡

カスターニアルの佐藤氏は、

辻

ミリーヨは自分で作っている。実際は動物性飼料の入手に困っている様である。

山本

マタヒトでは州政府から二五〇羽の雛を買入れ、一五羽死んだだけで後は成長したので、雛を売って子豚を回収してしまった。飼料は最初だけ、僅かに購入しただけで、現在は自家産の穀物と河魚、貝から等でやっている。

辻

鶏を飼う事は簡単であるか、飼料の欠か困る。

山本

マカパーはいろいろと研究してやっている。その自信はある。I C O M I、があるので需要にも心配はない。

上森

モンテでも少々やり初めたが、入植者の協調性がないので失敗した。現在は自家用だけだ。入植者の協調性が出来れば有利なものも信ずるか。

司会者

永年作はカーニコム、その他カカオ、コーヒ、デンデ、グワラナー等であるとの結論が出たようだ。さて、雑草に追われる熱帯農業の雑草対策は、

内田

緑肥作物が必要と思われるか、その結果は

高村

原生林を伐ったその年に永年作を植えるべきで、二、三年してから植えるとかボエラになって大変なことである。

アメリカには除草薬がある筈だが

小谷

2/Dは水分の多い所では駄目だし、費用が高くつき過ぎる。グワマは被覆作物もバルビアのため出来ないもので悩みが大きい。

辻

山を伐ったら、すぐ米、次にミリーヨ、それを収穫する前にマンジヨカを植



文る。マンジヨ力を獲る頃に永年作がある程度成長する様にして、土地を休ませぬ事だ。これ以外に方法はないだろう。

内田 ウルクーを植えた、め、雑草防止に役立つたという話もあるか。

小谷 ウルクーは成長が良く或る程度雑草を抑える効果はある。しかしウルクーの株算を考へねばならぬ。土さんの言う手段が良いと思う。

高村 まだ、研究の段階だが、小型除草機械を入れるのが現在では大切だ。

司会者 それでは、その問題は各自の研究に期待することにして一応打ち切りたい。明日は、太田移住振興代表は都合で出席できぬとのことであるので、これより太田代表と懇談したいと考へる。

小谷 移住振興の貸付けに、抵当物件を要求することか一番問題である。一番資金を要する入植者にこれを要求しても無理だ。

向井田 アマゾンでは新しい入植者でなくても無理だろう。土地の価値が非常に安価なのだから、それでアマゾンに於ては信用貸しを原則とする位の気持ちで貸して貰いたい。

太田 原則として抵当を取ることになっているが、アマゾンの場合は現況ではむづかしいと考へる。現在グワマに無担保で金を貸してある。どうしても担保がなければと言う款でもない。

羽根田 担保を取るとは原則である。か、出来るだけ話し合いで良い方法をとって行きたい。

小谷 グワマは今食べる事だけは出来る。目下は伸びるために機械が必要なのだ。今言われる無担保の融資も一家族当りわずか一〇コントスだ。その位では大した価値はない。

太田 機械とは何か。

小谷 理想論を振り廻せば限りがない。現在はハンド・トラクターを三戸に一台の割りで欲しい。一戸当り約七〇コントス位の融資である。ハンド・トラクターは現在グワマでは絶対必要なものである。

福、岡 現物貸与の方法がある筈だか。

羽根田 購入資金を使い、又現物も貸与する。

小谷 その場合二〇%の頭金を必要とするか。

羽根田 必要とする。これは早く消却して皆さんの手に渡すという精神で、決して酷

でない。

小谷 短期融資は時期を失せず貸して貰い度い。

辻村 グワマで五ののコンドミニアムの融資を受けたので大変助かった。これは今年の米の収穫で返済するか、来年度用として、直ぐ申し込んだら又貸して呉れるか。

羽根田 本日は商談に未たのではないので、時期等は返答できぬ。直ぐに申込書類作成し、提出して貰いたい。移住不振興だ、あれに頼んでも駄目だということなく、一層協力願いたい。今までは申し込んで一年二ヶ月かかったかも知れないが、今では申し込んで二ヶ月と言う様に短縮改善されている。

山本 マタピーの場合、申し込んで半年になる。せめて貸すか、貸さぬ、かの返事は早く出来ないものか。借入時期を失すると、少なくとも一年も無駄が出来る。農業融資の時期の重要性は良く分っている。四月以降は必ず早く決裁する様に政の得るつもりである。

向井田 青田貸し、又は生産物担保の貸付けについて意見をうけたまわりたい。

羽根田 本件はアマゾンでは重要だ。目下、本店と協議中である。

高村 マナオスの入植者は移住振興から資金を借りることをあきらめている。移住振興ではアマゾンで事業をする計画ありや。

太田 今のところ資金面の制約を受けるので、方針を変え、新規事業を行うより現入植者の定着、助長、育成に力を入れたい。たゞその事業を興すことにより、たとへ企業的に採算に乗らなくても移住の振興になると判断されるものはマツていく積りだ。現在アマゾンで二、三の話はあるがまだ研究中であり良く調査したい。

高村 日本の企業家は採算ベースから考えて、利廻りの遅いアマゾンより、利廻りの早い所を希むのは無理はない。しかし移住事業という面から考えて利廻りは少し遅くとも、大きな仕事はたくさんあるから是非乗り出して貰いたい。

太田 来年度予算の大半を上地の買収費が占めるので、事業を始めることは困難だろう。

辻 目下アマゾンで土地を購入する予定があるか。

太田 会社としては土地が安いから買う。高いから買わぬということはない。移住者のために良い所なら高くてもいくらでも購入したい。この様な考え方でゆくと、なかなか良い土地は少ないものだ。

注

従来の方法では移住は困難だ。従来のやり方は日本側は金がかか、らぬだろう。しかし一度返耕者が出ると、植民地側やINICはすぐ悪い点だけしか見ず、日本人に好意を持たなくなる。そこでJAMICが土地を買って訓練所のようなものを作り、これを日本からの新移住者に農耕させる。一年か二年して資金を作り、農法を覚えたらそこから出して他に土地を求めるとよし、定着希望者には、土地の一部を分譲しても良い。このようなことを研究して貰いたい。

太田

各地により事情が異なる。サンパウロのように独身移民を入れて農学校に通学させているところもある。この点アマゾンの良い方法を皆さんで智慧を貸して貰いたい。研究する。

上森

又、生産物担保の話に戻るが、モンテの場合、生産物を倉庫に入れて生産期間中の値の安い時は寝せておきたい。この寝せている間の融資を積みみたい。四ヶ月もすれば価格は騰って来ることは、アマゾンでは絶対に間違いないので返済出来ない様な事は絶対にないか。

太田

その問題は目下考慮中である。近いうちに御期待に沿えると思ふ。

小谷

貴社の融資に南北の比率はどうか。

太田

そんな事は無い。大体の枠は作るが一応の目安であって、ブラジル内に於ては融通自在である。唯融資を行う立場からすれば土地の価格、交通その他から見て南伯の方が安心感があるのは事実である。そのため南伯の方が融資も土地の購入も多い。しかし、アマゾンも良い土地があれば購入する。唯、アマゾンは時間をかけて、ゆっくりと研究しながら進める予定であるから永い目で見て貰いたい。

小谷

JAMICに植民地を廻って調査してもらいたいと考えたが、融資がないとの事であるか、何んとかならぬか。

太田

方々へ行って調査しては、幾ら人かあっても、融資があっても足りない。南伯のように組合が発達していると組合だけ調べると良いのだが、アマゾンも組合の強力なものを作って貰いたい。

羽根田

植民地を一番よく知っているのは海協連の職員である。是非協力願ひ度いと考える。

司会者

時間も未たので、これでオ一日を終ることとしたい。



才二日(十七日)

午前八時三十分開始

司会者

本日は先ず才一に移住政策に対する現地としての要望を討議したい。最近調査田が来る。これは大いに期待出来ると信じている。

辻

才一は、私が昨日述べた訓練農場方式を才一番に行っていくべきだ。

向井田

その訓練所も必要だが、その訓練所を出た人をどこにやるか、その土地の心配もせねばならぬ。実際的には非常にむづかしい要素を持っているので、具体的に研究する必要がある。

高村

現入植者の育成派化と、新入植者の導入の二つは分けて考えねばならぬ。従来、日本側ではあまりにも伯国側に頼り過ぎた感がある。伯国側の入植受入条件は結構ずくめだが殆んど実行されず、中間に立った海協連指導員の苦勞はいへんなものであつた。才一口ツテの測量さえ出来ぬのだから向題にならぬ。そのためには資金と指導員を増員せねばならぬ。又、入植者が活動したくても種苗が入手出来ない。これは大事なことでだから現地に種苗園をあらかじめ当方の手で準備する必要がある。道路の修理を行わねばならぬ。これは生産物の出荷に重大な影響を及ぼすので大切なことだ。この点を充分考えて貰いたい。

司会者

先ず既入植者の安定ということだ。

向井田

既入植者の生活を安定向上させることは、非常に大切で、これさえ出来れば呼寄せだけでも入植者はとんとく入る。既入植者の生活向上は最良のプロパガンダである。

上森

入植時の不満が脱耕の原因としては大きい。どうしても日本側で資金を出して完全な状態にして受け入れねばならぬ。

高村

モンテでも他の植民地でもそうだが、道路の修理は大きな問題だ。何とか日本側で補助して貰いたい。伯国側は全然あてにならない。

向井田

道路が悪いから、補助金を出して呉れただけでは困る。具体的に聖費やその修理によつて生ずる利益等を書出して提出してもらいたい。それでなければ日本政府に話し縁がない。

高村

学校教育の面も充分でない。衛生方面は特に重大だ。海協連に一名専任医を置いてもらいたい。その医師が各地を巡回してもらいたい。

向井田

結構な案だが、それは日本人の医師に限定して話していると考える。日本が

らの医師は伯国で副業出来ない事は承知の通りだ。そのため神田ドクターを調査と言う名目で巡回していたのである。

上 森 神田ドクターに良く伺って各植民地に救急用薬品を備えて貰いたい。その後はこれを廻転させて補充して行くか。

向井田 救急用薬品の量にもよるか。出資があっても一戸当りの額は大したものにならないだろう。入植早々の植民地ならいざ知らず、入植後年月も経っている植民地では自分達で備えるべきだろう。それまで世話することは移住者を甘やかすことになる。

神田 どんな薬があるか。どんな手当をするかは報告書を提出してあるから、海協連で近日にパンフレットとして配布する筈である。

小 谷 グワマでは共同で救急箱を作っている。それを二割程度高く販売して薬品の種類や量を増しつゝある。近い内に、種類が増えれば市価又はそれ以下にする予定である。

向井田 絶対必要で高価な薬品は何んとか補助を考えたいから。神田ドクターとも話し合って研究する。大体今迄の入植者は、植民地内での纏りが非常に悪い。利害かともなうことならいざ知らず、薬品の事とか、教育のことでは是非纏って貰いたい。

神田 単に衛生面だけでなく、食事についても、非常に各植民地とも不十分だ。協同飼育、協同屠殺を考えてもつと動物蛋白を取らぬと大変な事になる。鶏でも売ることはかり考えて、自分達が食べて栄養を摂ることを考えていない。

高 村 現在いづれにしても現職員数では不足で仕事がおろそかにならざるを得ない。さしずめ移動職員を二、三名おいて、出張せしめて応援するようにして貰いたい。

向井田 来年度の予算では人員も二名位増員出来そうだし、旅費も増額される予定だ。農場にも若い人を呼び寄せて指導員の養成も出来ると思うので是非実行したい。

福 阿 人間の問題については考えている。日本から連れて来ても一年や二年では指導員としては使えない。当館からもI A Nに三名程度の学者を送って、研究させる様に要求し、I A N所長も大いに賛成しているので実現出来る。この人々の力もかりられるだろう。外務省実習生も上手に使いたいと考えている。人間

を増やすとしても予算面に制限があるので、これ等の八町の利用を考ふる。

高村

シンパウロ方面で農林省実習生と話したが、永住する気持があるとは思じられなかった。永住性のあるものが欲しい。JAMICが南伯のあちこちに土地を賣うのは、土地の値上りを待っている様な感じを受けた。実際に移住振興を考えているかどうか。非常に消極的だ。

福岡

既入植者に対しては出来るだけ早く自主独立の出来るやうに指導して行くのが大切だ。日本の食糧な体制で、日本を出てから死ぬまでの援助は出来ぬ。それには先ず組合の強化を計ってゆかねばならぬ。

小谷

クワマの組合は対外的に非常に得である。

福岡

日本人同士で信頼し合って進むよう、平賀さんの指導を仰ぎたい。

上森

組合については各地主真剣に考えている。しかし、もっと新しい入植者を入れて組合員を増さねば経済的な基礎が出来ぬ。新しい人を大いに導入したい。

高村

移住振興はもっと積極的に動かねば駄目だ。慎重論も程度による。

司会者

それでは新入植候補地について

福岡

古川氏が来、又調査にも来る。立地条件から云えばベレーンに近い所程良い。しかし地質の点がある。B、R十四号国道沿線も考えている。又マラニヨン州のメアリン附近も考えている。

司会者

あちらも、こちらも調べることは無駄だと思える。調査田に目的地を示して重層的に調査してもらうよう、総領事とも良く相談して決めたい。

辻

メアリンは北パラナに次ぐ良質の土地である。

司会者

イリマ地方も堤防を作れば充分適地となる。これは伯国に日本農業の優秀性を示すのにも良い。このイリア地方は極めて有望だと考ふる。

辻

トカンチンズ附近、マラバール附近にも良い土地が沢山あるから候補地として調査すべきである。

司会者

機械化の点について意見をききたい。

向井田

農場のトラクタの使用について説明願いたい。

上野

二五HPトラクターは未だ到着早々であり、雨期でもあるのでその効果については断定出来る段階ではない。しかし伐採四年後のドイス・ガリーヨスのカボエイラを試験的に抜根整地して見たが、耕地を新しく伐って作るより旧耕地をトラクターで耕耘した方が有利であるという結果が出そうである。特に耕地



拡張により耕地が広がれば広がる程カボエイラ耕地を利用する効果は大きくな  
つて来る。

平賀 油代、償却費、修理費を考えると、トラクターは一〇〇町歩に一台位でない  
と採算が採れない、肥料を入れてしまうとトラクターで除草が出来ない事もあ  
る。トメ、アスーもトラクターが運搬車のようになってしまう。もつた  
いない話した。今少し研究の要がある。

向井田 機械化才一歩は  
グワマはハンド、トラクターだ。

高村 それは分るが現況としてはハンド、トラクターの協同購入は管理問題かから  
み、なかなか協同購入出来ないのでは困る。

向井田 ハンド、トラクターは振興会社に頼るほか現在は途がないのではないか。  
福岡 総局移住振興にマン、くとうるさく、喧ましく断えるより他に方法がないだ  
ろう。

司会者 この場合、現物貸与かよいか、融資かよいか。

谷 どちらでも良い、要は早く入手したいのだ。現在六家族で三台のハンド、ト  
ラクターを申請している。

小谷 グワマは水の問題があるので、バーチカル、ポンプを必要とする。  
向井田 しかし、それは直ぐ出来るものだし、安いものだから各自の力で購入すべき

山本 マザゴンはハンド、トラクターを貸与してもらいたいと考えている。

相沢 既設植民地はもう共同施設の貸与を受けるべき時期は過ぎたと考える。自ら  
の力でやってく行くように考えて貰いたい。

神田 機械化問題に関連して、病人救急用として不便な地には自動車を貸与してや  
りたいか。

向井田 それは理想だが運営出来るかどうか問題となって来る。

相沢 それはおそらくタイマーノ植民地を対象として、神田ドクターは発言された  
と思うが、今後入植者が増加される見込みだからなんとか考えられるだろう。

谷 生産物の運搬だけに限定して貸与すると運営出来ないか、それ以外に使用し  
てもよいとすれば収入の道は沢山あり維持運営は困難でない。

平賀 機械化の才一要素は、生産に怠じたものを入れるべきで、最初から大きなものを入れるのは一考を要すると思われている。

司会者 次いで組合の育成強化について論じたい。

上 森 才一は資金だ。出荷してもその代金を受取るまでに日時がかかる。この間の資金が欲しい。結局は倉庫入りの生産物を対象として振興会社が短期融資をしてくれる、は良いか。

高 村 マナオスでは倉庫があれば非常に組合が強化される。又、モンテ、ホア、ウイスタ、ポルト、ウエリヨの集荷所としても使用出来る。

向井田 その意味でベレーンにも倉庫が欲しい。

高 村 この様な点で、折角現地に支店が出来たのだから、現地の事情に即して振興会社がどんな事業をやってももらいたいものだ。勿論、運送機関を併せもって来れば尚よい。

平 賀 船は法律上JAMICが持つことは困難だろう。

相 沢 太田代表の話では、アマゾンに事業進出の気は無さそうに感じたか。

上 森 モンテの組合の発足は倉庫から始まっている。倉庫があつたから組合がどうやら軌道にのつた。運輸問題は別として倉庫をマナオス、ベレーンに設けることは入植者に大なる利益を与えることは間違いないことでは是非実現したい。

小 谷 今日の間接では、組合の育成強化は振興会社の融資に影響されることか多い。海協連としてはやれるだけやっているが、返済問題になると、どうにもならぬことか多い。

相 沢 倉庫はどこかに貸りたらどうか。振興会社をあてにしても何時になるか分らぬ。借料を払っても採算が採れる筈だが。

向井田 さしずめの問題は、その管理をだれがやるか。又その管理費をどうやって出すかが問題点となるから、研究せねばならない。

司会者 先程、相沢氏のお話しでは既設植民地には、もう共同施設物を貸与する段階でないとの事であつたか、それに対して何にか意見があるか。

小 谷 伯国側があてにならぬことはすでに述べ盡くされている。各植民地に小さいながら植苗園が欲しい。

司会者 各地に設備することは良い策だが、誰れが管理するかという問題がある。

相沢 各地の篤農家に相当の報酬を支払って、依頼したらどうか。種苗園ならば大して大きなものにはならぬ筈だから。

上森 駐在員が労働者を使用してやることは、事実上非常に困難であるので、依頼力の多い篤農家に依頼したい。

司会者 植民地設定に方により最初に必要なものは種苗である。

山本 現在としては、モンテ種苗農場も何処に輸送しても活着させ得る強健な苗、輸送方法を研究して欲しい。又、苗の必要なのは入植時一年目が最も大事なものであり、二年目からは各自でいろく、と考えながら作っていく。

相沢 そうすれば、新入植地に必ず種苗園がいることになるが、入植決定から入植までに種苗の育成が出来るかが問題となつて来る。

町田 モンテにある現在のものを重点的に増したらどうか。

向井田 問題は苗の輸送の点にある。今の交通機関を利用して輸送する研究を上野さんにお願したい。

相沢 現在としてはマノオスに一ヶ所位設ければ良いのではないか。

向井田 そうなれば農場費の一部をさいてやることも出来ない相談ではないであろう。

司会者 モンテの農場の強化策について意見をききたい。

上野 現在、聖費の点もあるが、人員不足で全く弱っている。日本から青年を呼寄せ、教育しながら運営する方法を考えて貰いたい。

司会者 未だ青年は沢山いるか、問題はその聖費だ。

向井田 人数にもよるか、出米ぬことはないだろう。

上野 五人位は是非欲しい。

町田 特にどんな技術者が欲しいか。

上野 熱帯農業研究者だ。

平賀 特に作物試作研究者が欲しいだろう。

上森 差し当り、現地にあるものを一般化することをやって貰いたい。米、ミール、ヨのように輸送費に喰われるものより、もつとなにか良いものを探してもらいたい。



十七日午後

平賀氏植民地巡回報告(大要)

人口密度が疎である地方に入つて、食糧増産に努めることには限度がある。そこで少量で輸送が便利で、価格のあるものを栽培せねばならぬ。目下はヒメシタが良いと考ふる。そこで永年作物は何か良いかと言ふことになるが、まだ手探りの状態である。いろ／＼と試作して見なければならぬ。しかしこれを慎重にやらねば、一回販売するともうそれは駄目だと考えて非常に危険である。土地の選定も大切であるが、有樹質を絶えず混入して土地を肥やすことが大切である。どんな良い土地でも四、五年すれば地力が衰えて肥料がいるようになる。このため各地とも緑肥の研究は勿論、有畜農業に移る様に指導せねばならぬ。金肥を使用することは採算がとれぬだらう。そのために油脂用作物、香辛料等の栽培を研究することが有利であると信じている。トレービ、デ、センテ、ンプロ、タイアームの特殊作物としてはマホガニー、カフチー等が良いだらう。但し表土が流失し易いのでこの点を考へねばならぬ。マナオス郊外では果物、パウ、ロレザの植林等が有利である。ベラ、ヴィスタ植民地では一番困っているのは道路の回濶である。これを何とか解決せねばならぬ。アリアウ地区は板興会社の融資を当にしているようだが、カルデロン地区は永年作を持っているので、移住板興を全然問題にしていな。ベラ、ヴィスタ植民地では各佃でツアリニーヤを製造しているが、植付面積、加工能力に限度があるから、共同加工工場を持つことが望ましい。私が面白いと思つたのはカフチーの蔭木としてインカーを植えているが、これが非常に育ちが良く都市が近いので、立派な換金作物となっている。そのようにプアニーヤ、クアアス等思わぬものが金になっている。だから研究してみるのも面白いと思う。又、タイアームも道路は非常に悪い。土地は非常に良質で表土も深いので作物も良く出来る。それで道路と輸送手段を考へねばならぬ。又、タイアームに限らないが、街に倉庫又は常設売店を作らねば、生産物が売れ残ったからと云つて持つて帰らず、結局、足もとを見すかされてたゞかれる。この点を考慮してやらねばならぬ。

高村

事実タイアームは車の便が悪いので、たまにトラックが来ると人間の力が多くて出荷できないことが多い。

司会者 モンテ産のパパインは日本で好評だった、この様なものを各地に進めたい。  
タイアーンもこんなものを作れば良いだろう。

平賀 タイアーンはピメンタもヤアナ、ヴェネズエラを市場として有望である。ト  
レーセ、デ・セツテンプロもホリヴィアを市場としてピメンタは有望だ。大体  
赤道地帯は四年毎に旱魃が来るといふ傾向があるから、乾燥に強いものを最初  
から考えねばならぬ。乾燥の激しい所は一つのものを多量にやらずに、いろい  
ろのものがある程度づつやる方が良いだろう。ある所ではグワラナーを蔭木と  
してカフエーが助かって成長していた。

上野 牛は乾燥に強いか。  
今年乾燥で、ツアルゼアの草も枯れた、ゆ火が入ったり、毒草を喰べたり  
して相当に被害を受けたが乾燥には強いと言えぬ。

平賀 マタピーはゴムに全部を託しているが、採液開始までの収入源をもっと研究  
の要がある。ゴムの接木をしていないものがあつたが、他に頼らず自分で芽接  
ぎをせねばならぬ。接木をせぬものは一五瓦、接木をしたものは三〇〇四瓦  
の採液があることを考へべきである。

高村 マタピーはゴムに対し銀行融資があるか、  
山本 ある。

高村 そうすると芽接ぎ費はその中に含まれるのか。  
山本 マタピーは、州の農務局から芽接ぎをやりに来る。政府に対する依頼心が強  
くてマタピーではこれが発展を阻害している点が多い。だんく矯正してい  
つてもりてやつている。

注村 グワマでは芽接ぎは行わない所長の方針である。接ぎ穂がないせいだと考える。  
しかし若い内に傷をつけて、その液の出具合で回種に選別して良いもののみを  
成育せしめるようにする方法を取っている。

平賀 それは悪い方法ではないが、実際問題として芽接ぎをしなければ、多くの採  
液は先ず見込ない。ファゼンジンニアは土地が州政府のものであるので、永年  
作物を植えることを真面目に考へていない。野菜だけの収入で充分やつてゆけ  
るという点もあるだろうけれども、他人の土地だからといって永く住む以上は  
果樹等をどんく植えておけば損はない筈だ。詳細は報告書を提出したので、  
これをプリントとして配布するとの事であるので御覧願いたい。

調査の点は時間的に余裕がなく、診療が主となってしまったのは残念であるが、診療の結果からいろいろと報告したい。

入植者は気候が変化しただけでなく、熱帯地に於ても尚日本的な食事を固守し、栄養不足を生じている。又入植早々であるので、農耕を急ぐため暑さを考慮しないので疲労が激しく、従って、肉体とあせりから来る精神的な面で体力を消耗して、入植半年目位かいるころと発病が多く、これが一応慢性化して今も残っている様な有様である。それを全治せず、残しているのは、マラリア、アミイバ赤痢等がある。その他皮膚病、胃炎、トラコトマが割合に多い。悪性熱帯疾患はどこにも全然ない。寄生虫も多いようである。マラリアとアメーバの慢性は肝臓を犯すから特に注意して治療せねばならない。植民地でオニに気が付くのは栄養の悪い点で、その原因は

(一) 日本と同じく、米、野菜だけしか扱っていない。

(二) そのため米を多量に摂るので胃が悪くなっている。（胃拡張、胃潰瘍）

この二つであるから栄養上の指導を要する。皮膚病の多いのは日本人は風呂好きであるにもかゝらず、トマ、バーニヨ後、汗のついた被服を直ぐ着る。これが皮膚病に大きな原因を与えている。住居問題は、最初から衛生的な理想的な家を作ることには無理だから次の点を考慮に入れて建てねばならぬ。

(一) パーリヤは古くなると害虫の巢となり、シマールガス病の原因となることがあるので、出来得るだけ早く瓦に取り換えねばならぬ。

(二) 天井を張る様にせねばならぬ。

(三) 雨戸を付け、害虫が家内に入らぬ様に、出来れば金網を掛ける必要がある。

(四) 床に直接履具を敷くことは非常に悪い。ハンモックか出来ればカーマにすべきである。

(五) 薬剤撒布を年二回位当局側に頼んで行うべきである。又、壁にD.D.T.を混ぜて塗ることは非常に効果がある。

(六) 通風乾燥を良くし、直射日光の入りぬようにすべきである。

(七) 床下に犬や鶏がいるのは不潔だから考へねばならぬ。

(八) 特に便所は密閉して蝇のわかぬようにせよ。

炊爨も結構だが、先ず以上の点に留意し資金を使用すべきである。水は必ずパイ



ルトで濾過して使用せねばならぬ。海協連としては、栄養の点を考えてパンフレット等を作り衛生講習会等を行わねばならぬ。營養状態が良く、開拓熱の多い植民地程病人が少ない。植民地別にこれを見ると、

(一) タイアノ 三年前に行った時は熱性疾患があつたが、現在は無くなつてゐる。これは栄養が良くなったからである。食事が改善されてから熱性疾患は無くなつたとの事である。牛肉に恵まれているのだから、もっと自家用野菜を作つて栄養が片寄りぬように摂るべきである。又、トラコーマか幼児に多いから注意を要する。

(二) ベラ・ヴィスタ マラリアは全然ない。皮膚病が多い。共同で牛や豚を殺して栄養を考えるべきである。又、共同救急薬を考えるべきである。

(三) トレーゼ・デ・ビテンブロ 慢性マラリア患者が多く治療の方法に欠陥がある。熱が下かると冷つたと思つてしまふのは間違いだ。マラリアは熱が下つても徹底して治療すべきである。又、アマーバーから来た肝臓病がある。

住居もひどい。これはマクピでもアサイザールでも同じだ。グワマのように、二階建てにした方がよい。又、カボエイラの処置と、排水の便を考へねばならぬ。

(四) グワマ 米が沢山穫れるため慢性胃疾患者が多い。栄養は各植民地中一番悪いようだ。特に主力が月下野菜生産にあるので、体力を要するのだから栄養の点をもつと心掛けるべきである。

(五) マクピ マラリアが多い。こゝも他と同様栄養状態が悪い。特にヴィタミン欠乏が多い。もっと現地白人の生活を習つて、現地食を研究すべきである。

(六) ファゼンジンマ 非常にハエが多い。もっと便所の設備を考へて貰いたい。又、労働が激しいのだから肉食を摂り、同時に脂肪分をもつと摂らねばならぬ。

(七) モンテ・アレグレ 他に比較して、健康状態はよく、マラリア、アマーバ等は少ない。

モンテに限らず入植前に結核に犯された者が多いが、これは日本でレントゲンの画像撮影をして濾過させる様に気を付けねばならない。營養上病気に犯されることは致命的である。現在の慢性マラリア、アマーバ等を完全に治療し、住宅をもつと清潔にする必要がある。金を掛けなくても、頭を切かせれば、この問題はあ

る程度解決出来る。栄養摂取問題は豚・鶏を自家用としてもっと飼うことは勿論、真剣に考へねばならぬ。尚、マリアの予防薬は、新しい薬が出ているから、その心配のない人も用いることが望ましい。名前はグラブリンがよく、又レゾシーネも出ている。

司会者

いろいろと熱心な討議や報告が行われて得るところが非常に多かつた事を、大変うれしく思う。今後、更によりよいアマゾン建設のために、意見をドンドン出して、お互に研究し合ふようにしたいと希望する。

榎岡

移住と企業との問題は、私の前々からの考へで、今日もその問題が論せられたか、海に心強い気がした。既移住者が成長しつつあることは、指導員諸氏の御努力の賜と感謝にたえない。私も役人というワケから脱して仕事をしたいと考へている。又、平賀、神田両氏の巡回は非常なる好評を収めているので、来年もこれを実行する様努力したい。海協連職員が、家族的な気持で、熱心に会が進行された事は非常に楽しく感じられた。私も及ばずながら政府や、移住関係者との緊密なる連絡をとり、アマゾンの特殊性を強調したい。又、伯国官憲との折衝にも従来以上に意を用い努力して行きたい。

司会者

これで今回指導員連絡協議会を終了することにいたします。

以上

一九五九年五月

海協連アマゾン支部

一九五八年度

アマゾン地域 入植地情況 (才三輯)

外務省移住局企画課

## 序

昨年十二月末日を期して、当支部管下の各植民地の事情とその営農状態を調査しました。その集計が漸く出来ましたので

一 アマゾン地域入植地状況

ニ アマゾン地域邦人移住者営農状況統計表

として謄写印刷に付しました（本年度才三冊目である）。

この調査・統計について御承知願いたいことは、その対象が当支部管下の植民地および入植者に限られており、従って

一 戦前の入植者

ニ ベレトン近郊、トメ、アスー植民地その他地方に散在している戦後入植者等が集計されていぬこととあります。それは人手の不足と距離によります。そのため「アマゾン地域」と冠しても、余白を網羅していかないことは遺憾であります。致し方ありません。この調査に当っては、当支部職員をして入植者を各戸訪問して直接得た数字であり、前回二度の経験を生かしておりますので、可成り正確に近いものと信じております。

アマゾン地域は日本の十一倍もある広大な地域であつて、その気候、土壤が異なるばかりか、地方により生産物の販売価格も非常に差があり、さらに輸送、販路、入植年限、携行資金、あるいは永年作植付の諸条件および社会的条件等が各植民地毎に異なるので、単に集計された数字のみで各植民地の成績を批判することには非常な無理があるのであつて、正確を期するためには種々の角度よりこれを分析する必要があつたのであるが、職員の不況に加ふるに業務多忙でその試みが出来得なかつたことは洵に残念であります。

ともあれ、本支部職員をして調査せしめたものを正直に集計したのが本記録でありますので、その成績の可否は兎も角、当アマゾン地域入植者の状況を窺ひ知る一助にもなれば幸甚に存じます。

一九五九年五月

日本海外協会連合会

アマゾン支部長 古田純三